

梅花の候 宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部会員の皆様には、猖獗を極めるこのステルス・オミクロン・コロナ禍中に於いても、恙なくお過ごしのことと拝察致します。

1月から始まった第6波は殆どオミクロン株に置換され、ワクチン2回接種者も容赦なく感染の危機に晒されているようですが、来月から実施予定のブースター接種が始まれば程なく沈静化するものと思われ、現に沖縄等では子供や若者の感染者数は減少傾向との事です。

沖縄と云えば、正月2日より5日まで那覇から名護まで足を延ばし、摩文仁丘にある牛島大将終焉の洞窟や、太田中將が自決された小禄海軍豪などを慰霊した後、友人の案内で空自那覇基地内の海軍砲台跡等を大変興味深く見学させて頂きました。

私の最初の訪沖は本土復帰した昭和47年8月、高校3年時ボーイスカウトサマーキャンポリーに宮崎県代表として参加した50年も昔の事であり、野営地は本部町に聳える八重岳頂上の米軍レーダーサイトで、沖縄スカウト達と交流する中で共に日章旗に敬礼した記憶があります。

波静かな名護湾には辺野古基地建設用の土砂運搬船と思われる船舶が10隻以上停泊していましたが、1/23の市長選挙では現職の渡具知氏が再選され、岸田政権を始め沖縄県内外の移設推進派には誠に力強い民意を得て、9月の知事選影響必至と誰しも考えるところです。

先月も毎年恒例の「えびの駐屯地新年賀詞交換会」や「宮崎地本創立67周年記念式典」など中止のご案内が昨年末早々と届き、本来ならば今月実施予定の当支部総会も、昨年に引き続き中止のやむなきに至りましたので、誠に忸怩たる思いですが謹んで皆様にお報せ致します。

令和4年度総会資料と会員には書面表決書を同封致しましたので、ご精読頂いた上で各1号議案から4号議案について**不承認の場合のみ**、その理由を添えて事務局までFAXして下さい。

また昨年12月4、5日に開催された5000人限定の「ウィーエンド新田原」には、当支部会員から33名の方にご参加を賜り感謝を申し上げる次第です。その中から数名の新たな入会希望者があるようですが、会勢の充実発展や若返りの為にも皆様の周囲におられる自衛隊大好き青年達を是非ともご紹介頂き、併せて**年会費についても早めのご入金**を重ねてお願い申し上げます。

年明け早々から連日のように北朝鮮ミサイル発射と喜色満面の金正恩TV映像報道が届き、北京冬期オリンピック開催寸前の習近平や、ウクライナ国境に10万人もの大軍を集結させているプーチン達と、何やら良からぬ事でも画策しているのかいなと勘ぐりたくもなりますが、今月も小川先生の直近メルマガからタイムリーなミリタリー情報をお届け致しますのでご一読下さい。

・極超音速ミサイルでうろたえるな！

北朝鮮が次々と新型ミサイルを発射し、日本国内でも危機感を持って受け止める向きも少なくないようです。

「岸信夫防衛相は12日、北朝鮮が11日に発射したミサイルについて、**変則軌道**を描きながら最高速度マッハ10で飛んだとの分析を明らかにした。事実上、北朝鮮が**極超音速ミサイル**を発射したとの認識を示したことになる。防衛省で記者団に語った。極超音速ミサイルは日本のミサイル防衛(MD)で**迎撃困難**とされ、北朝鮮の脅威が現実には迫っていることを如実に示した。(中略)一方、北朝鮮はミサイルが約**1000キロ**飛翔し、標的に命中したとの認識を示した。仮に北朝鮮東岸から日本に向けて発射した場合、**首都圏**をうかがう距離となる。(後略)」(1月12日付産経新聞)

しかし、そもそものところから考えないと**北朝鮮の術中**にはまり、日本の防衛力整備に混乱をきたす恐れがあります。

その射程距離だと**西日本の米軍基地**にも届きますし、高度50キロほどの大気圏内を高速かつ変則で機動することで、従来のミサイル防衛では**対処に困難**が生じることは間違いありません。

といっても、極超音速ミサイルが射程1000キロを備え、音速の10倍マッハ10で飛んだとしても、**慌てふためく必要はない**のです。

それはなぜか。ミサイルや砲兵職種の専門家ならわかっていることですが、**通常弾頭**の破片と爆風による**破壊の効果**が**限定的な範囲**にしか及ばないからです。

確かに不意を衝かれれば、ミサイルを撃ち込まれた場所で死傷者が出るかもしれません。しかし、**何発を撃ち込めば**、例えば在日米軍基地に**壊滅的な損害**を生じさせることができるのでしょうか。仮に**100発**撃ち込んでも、それが**通常弾頭**である限り、**被害が限定**されるのは湾岸戦争や最近のイランによるイラク駐留米軍への弾道ミサイル攻撃でも明らかです。

そして、北朝鮮が1発でもミサイルを日本や韓国に向けて**発射したら**、まず**韓国**が備えるキル・チェーンによる**反撃**が行われ、合計**1700発**ほどの弾道ミサイルや巡航ミサイルが**北朝鮮の重要目標**を直撃することになります。そこに横須賀を母港とする**米国の空母打撃群**と巡航ミサイル原潜による**トマホーク巡航ミサイル**、**空母の艦載機**が加わることになります。これは、北朝鮮版イスカンデル(KN23)や北朝鮮のミサイルが生物・化学兵器の弾頭の場合も同じです。

従って、基本的には**北朝鮮**がミサイルによって**先制攻撃**に出ることは**ありません**。北朝鮮について備えておく必要があるとすれば**核兵器**を振りかざして恫喝してきた場合です。

そのような**国家存亡の危機**という認識に到ったとき、**米国**は**先制的自衛権**を強引に行使する可能性があります。空母打撃群と巡航ミサイル原潜が搭載するトマホーク巡航ミサイルだけでなく、**韓国**のキル・チェーンも北朝鮮に対する**先制攻撃**に投入されるでしょう。

韓国と米国が備える**打撃力**には、抑止効果を求める**反撃力**としての位置づけとともに、**先制的自衛権**を担保する側面があるのです。

日本が、いわゆる「敵基地攻撃能力」を備える場合、そうした打撃力の両面を理解したうえで、艦船と陸上に配備される巡航ミサイルと航空自衛隊の戦闘機によるストライク・パッケージによって、対北朝鮮戦略の一角を担うというのが自然ではないかと思えます。

同時に、日本に向けられるとすれば、その圧倒的多数は従来型の弾道ミサイルになると考えられますから、イージス・アショア(陸上イージス)の失敗の穴を米海軍のイージス艦を借り受ける形で秋田県と山口県沖に、それも可及的速やかに展開することで埋めるのが、順序正しい防衛力整備ではないかと思えます (小川和久)

最近よく耳にする「敵基地攻撃能力保有の是非」について、産経新聞社と FNN の合同世論調査の結果が 1 月 25 日の産経新聞に掲載されていましたが、支持政党や性別で賛否の割合が大きく異なったようです。

「敵基地攻撃能力保有」の賛成は全体で 43.5%・反対は 50.6%、政党別で自民党支持層の賛成は 52.7%・反対 40.8%、維新支持層賛成 53.1%・反対 42.0%、公明支持層賛成 48.1%・反対 41.6%、無党派でも賛成 35.2%・反対 58.9%で、立民支持層のみ賛成 29.7%・反対 67.2%と突出しています。

男女別では男性の賛成 56.5%・反対 40.2%に対し、女性は賛成 31.3%・反対 60.4%と出たようですが、それでも立民支持層の反対 67.2%は全ての対象者を大きく引き離しており、日本の公党として国民の生命・財産等を本気で守り抜く責任と覚悟があるのか不安と疑問は尽きません。

火事や犯罪、そして様々な不祥事等の根絶は「元から叩く」のが原則で、それがあらゆる再発防止に繋がることは自明の理であり、イラクやアフガン等も「大量破壊兵器・テロの温床」と疑われる所以だからこそ、米軍中心の多国籍軍等から手痛い攻撃をされたものと承知しています。

所謂「策源地攻撃」とも云われますが、この「敵基地攻撃能力」こそは究極の自衛能力で有り、全くの私見ではありますが問題の多い「専守防衛論」とも全く矛盾せぬものと思う次第で、恐らく立民支持層の中にも「攻撃は最大の防御」等と平気で嘯く方々も大勢おられる事でしょう。(笑)

日本弱体化を虎視眈々と伺う北朝鮮や中国及びロシア、或いは韓国から日本を守り抜く為に「専守防衛」等の机上の空論で遊ばずに、「敵基地攻撃能力」や「核兵器開発・保有」等の国民的議論を今始めなければ本当に間に合わず、その為には先ずは憲法改正が喫緊の課題です。

欧米は毎日 40～50 万の感染者が出現してまるでコロナ対策を諦めた感がありますが、当初からの所見の如く「With Corona」は避けて通れぬようであり、我々もうろたえず自己防衛の為にマスク着用、手指消毒及び三密回避の実践継続に努めるしかありません。呉々もご自愛下さい。

令和4年2月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦